



令和3年7月 7日 (水)

学校だより 第62号



# 高槻だより

高槻小学校学校教育目標  
「心豊かで 自ら学ぶ たくましい 子どもの育成」

目指す子どもの姿

**た** かい ころろざしをもち **か** しこく  
**つ** よく **き** よらかな 子ども



【高槻っ子の4つの実践…あいさつ・がんばり・おもいやり・いのち】【新しい価値創造に挑戦する学校】

## 感染拡大防止&健康管理等へのご配慮をお願いいたします！！



## 願いごとをかなえるのは…！自分です！！



七夕では、笹の葉に願いごとを書いた五色の色鮮やかな短冊を吊るします。鮮やかな光景が素敵な風物詩です。でも、そもそもなんで七夕に願いごとをするのでしょうか？

七夕といえば、織姫と彦星ですが、1年に1回、天の川を渡って織姫と彦星が会える日です。では、なぜ年に1回7月7日なのでしょう？

織姫とは、その名前の通り、秋の豊作を願う際に、神様が着る着物を織る女性のことです。織姫が一生懸命に、はた織りをしているのに、天の神様が牛の世話をよくする牛飼いの彦星と結婚させてくれたと言われていました。ただ、2人は楽しくて仕事もせずに遊ぶようになり、神様が怒って2人を天の川を挟んで引き離してしまったという悲しい物語です。

そんな織姫と彦星が哀れになった神様が年に一度、七夕の日だけ2人を合わせてあげることにしたというものです。そのために2人は、七夕の日のために頑張って仕事をするようになったというのです。実は、今にも通じるような深い意味があったんですね。また、はた織りの機械を昔は「棚機(たなばた)」と呼んでいたのが七夕の名前の由来になっているのです。(出典 小学館)

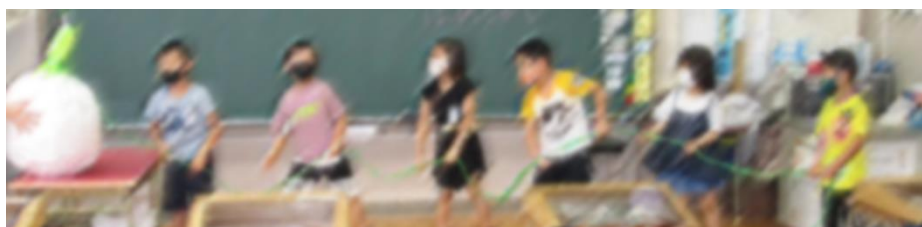
では、願いごとをかなえてくれるのは誰でしょう？願いごとを書いて吊るしているものの、誰が願いごとをかなえてくれるのか考えたことがある人は、少ないのではないのでしょうか。

七夕のお願い先は、織姫(中国の風習だった「乞巧奠(きこうでん)」では、織姫にあやかり、はた織りや裁縫の上達を願うもの。つまりお願い先は織姫です。七夕の童謡でも、「私が書いた五色の短冊をお星さまが空から見てる」という内容の歌詞が歌われています。)です。

しかし、お願いごとと言うと「○○できるようにになりますように」などと書くことが多いですね。でも、そのために努力するのは自分です。つまり、織姫にお願いをするけれども、それを実現するのは自分ということです。お子様にそのような声かけをされてはいかがでしょうか。素敵な会話になりますね。

### 【高槻小スナップ☺お知らせしたい 子ども達の様子！！国語科の学習 1年】

1年生の子ども達の国語科学習「大きなかぶ」です。この学習は、本当は、学習参観で行う予定だったとのこと。セリフを覚え、はっきりとした声で言っていました。また、よくわかるように演じた姿に感動しました。全員が交互に演じる役、セリフを言う役をしました。



### 【校長室より☺気を引き締める！！】

高槻っ子が、自分の目標に向けて努力し、よりよい成長をしますように…！

これは、高槻小学校の願いごとです。かなえるのは、私たち職員の仕事です。そのためにも、保護者、地域の皆さまの思いに添っていくように努めます。

